

2024年度(令和6年度)事業報告書
(2024年(令和6年)4月1日～2025年(令和7年)3月31日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

これまでに力を入れてきた、産前～出産直後・未就学児～学童期までの様々なステージでつながっていく場の整備について、小学校から高校までの様々な学校や商店会等との連携について、2024年度は特に連携を意識した上でのさらなる展開に注力してきた。

具体的には、こまちカフェ・こよりどうカフェに於いて、こまちパートナーの方々をはじめとする様々な方とともに「心地よい関わりが生まれる居場所」を日々作りづけてきたことが一点目である。特にこよりどうカフェでは、働いている方や地域の方にお惣菜をお届けする事業(アウトリーチ)やterabaru(夜の居場所づくり)といった比較的新しい取り組みが定着し始めている。また、こまちカフェでは、こまちパートナーの皆さんとともに新たな体制にて居場所づくりを再構築することができた。

二点目としては、働き方の整備を行ったことが挙げられる。ワークシェアをしている組織ならではのマネジメントの難しさを踏まえ、より効率的なグループウェアの活用を模索し続けてきた。勤務形態に違いがあったとしても、NPOの場で働き続けられるような仕組みや体制を探ってきた一年だった。

三点目に、長野県・北海道の各地域で「カフェ型の居場所づくり」にチャレンジしたい人に向けたプログラムを実施した。各地域の団体とのパートナーシップをもとに開催することで、その土地ならではのつながりが創出された。特に岡山での「心地よい関わりが生まれるカフェ」のプログラムの事後調査も研究者とともにに行い、「カフェ型居場所」を立ち上げるハードルや地域における必要なサポートについて、研究を実施した。オンラインでも学び合いが続くコミュニティ「こまちIBASHO研究会」の試験運用を経て、全国各地においてカフェ型居場所が立ち上げやすく学び合える環境整備を目指し素地を作ることができた。

<事業内容>

I. 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容:【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集し、ネット上に毎月100～200件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】コロナ禍前の状態に完全に戻りつつあると感じるほど、イベント数も多く多岐にわたっていることを感じる1年だった。パートナーさんたちの入れ替わりが多かった年度ではあったが、着手前にお一人お一人関わっていただけるペースをお伺いしながら進めていくように心がけた。各々のペースで確実に入力作業を進めることができたが、パートナーさんのその都度の状況やお気持ち、チーム内での情報共有をする時間を定期的に確保することがあまりできなかったことは反省点である。一方で、パートナーさんからも地域こそ子育てカレンダーへのご提案を頂いたり、システムの課題点をご指摘頂いたり働きかけがあったことは非常に嬉しいことであった。また、地域こそ子育てカレンダーの存在を知った方からは、外出時に活用してくださっているという声を頂戴し、励みになると同時に引き続き、届いたイベント情報を迅速に輸入・公開できるような連携を図る工夫を重ねていきたいと考えている。今年度の地域こそ子育てカレンダーの閲覧数は約13,000PVである。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員:10名
- ・受益対象者:区内外の母子中心に、のべ13,000名程度
- ・支出額:204,560円

2. とつかの子育て応援ルームとことこ情報スペース運営事業

- ・内容:【概要】年間約1万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設に於いて、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1人の情報コンシェルジュが常駐し、月間100件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】今年度はとことこ便りの作成や、区が発信するエックスへの投稿の発信に加え妊娠時期に活用できる施設情報や相談先の情報発信に力をいれた。また、地域資源の発信のひとつとして、戸塚区内の親と子のつどいの広場に情報コンシェルジュが足を運んで取材し、写真と各施設のスタッフおすすめポイントを掲載した情報をとことこ内の壁面及びとことこ便りにも掲載した。季節の壁面掲示では、季節に合わせて地域に点在するイベント情報を集約し、情報を2次元コード化、スマートフォンで速やかに情報が得られるよう工夫した。地域子育て連絡会やつどいの広場連絡会、赤ちゃん訪問員連絡会に出席、地域の子育て支援者との情報交換をすることで、保護者のニーズや実態を知る機会も得ることができた。また、相談では来所者がどんなときも安心して訪ねられる雰囲気大切にしよう日々心がけた。その結果、雑談の立ち話から相談につながるケースも多くあり、その相談件数は1350件となった。年度後半では、情報コンシェルジュとして保育園や幼稚園の利用制度の研修や、より安全に来所者に情報提供できるように戸塚警察署の警察官による不審者対応講習を受講した。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
- ・従事者人員:4名
- ・受益対象者:のべ9,921人
- ・支出額:1,774,106円



↑区役所3階



↑情報スペース

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

1. こまちカフェ

・内容:【概要】日祝日を除く毎日(月曜日～土曜日)戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場の創出を行っている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場がつけられている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】主に子育て世代および地域の方々に安心して過ごしていただけるカフェ運営を心がけた。年間を通じてランチメニューやドリンクメニューの開発に取り組み、常に新鮮な気持ちでカフェをご利用いただけるよう努めた。前年度の3月から取り組んできたパートナーさんとのランチ提供を今年度から本格導入した。平日(月曜日から金曜日)のランチタイムは、スタッフ2人とパートナーさんの3人で運営し、忙しい日常の中でも気軽に参加できる工夫を重ねた。コーヒーを淹れる練習や新メニューの開発会議にも参加していただき、それぞれが自分のペースで楽しみながら充実した体験を過ごせる場を提供した。また、こまちパートナーの方々の「やりたいこと」や「得意なこと」を活かせる場としての機能も充実させ、毎週火曜日には『絵本読み聞かせの会』を開催。パートナーさんに絵本を読んでもらう機会と子育て中の方々がふらりと来店できるきっかけを作った。2024年5月には、現在の場所で開催から10周年を迎えたことを記念して、「周年イベント」を開催した。地域の皆様や利用者、寄付者に感謝の意を表すとともに、こまちぶらすの居場所としての役割をさらに強化するため、多彩なプログラムを実施。「蓮のつぼみ」をテーマにしたアニバーサリープレートやスタンプシールラリー、限定数のエコバッグの販売を行い、参加者の皆さんに楽しんでいただいた。地域での外部販売にも力を入れ、従来は焼き菓子やケーキのみの出店だったが、2024年度からはお弁当の販売も開始、近隣の方々に広く知っていただく機会を設けた。また、戸塚小学校の生徒さんとの交流も例年通り続き、今年は夏にトマト、冬にさつまいもをいただき、それぞれトマトスムージーとスープの材料として提供した。リラの家のミールサポートでの出張料理やお弁当の宅配も例年通り継続して行った。また、戸塚区内の小学校への出張授業(倉田小学校、深谷小学校)も行い、6月には長野県・12月には北海道にて出張「ワンデーこまちカフェ」を開催した。これにより、他地域や多世代の方々にこまちカフェの取り組みをお伝えする貴重な機会となり、スタッフ自身も日々の活動の意味を再確認することができた。

・日時: 通年

・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

・従事者人員: 15名

・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ 7200名程度

・支出額: 13,268,386円



パートナーさんがお手伝いしてくれている様子



2024年度に開発した冬メニュー



リラのいえのミールサポート



←倉田小学校での出張授業の様子

2. こよりどうカフェ

・内容:【概要】2022年12月に「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内に「こよりどうカフェ」をオープン。こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指している。利用者のみならず、運営に携わるボランティアも年齢や障がいの有無を問わず様々な方が関われる場として運営。日祝日を除く毎日(月曜日～土曜日)、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携も進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に実際に足を運んで過ごすことが難しい方々との接点を作ることに取り組む。

【今年度の成果】開店より2年目となる2024年度は、前年度に整えた体制をさらにブラッシュアップして日々の運営に取り組んだ。発案したスタッフがそれぞれのアイディアやストーリーを盛り込みながら取材をし開発した「味噌玉・チャイ・マフィン・かき氷・休日イベント限定でカレー・ハンバーガーセット」などオリジナル商品の提供に力を入れた。5月には公式LINE(2024年3月時点:友だち500人超)をスタートし、毎月発行のニュースレター、日々のSNS(HP、Instagram、X)発信を行い、あらゆる媒体での情報発信をするよう努めた。2周年のアニバーサリーでは、スタッフだけではなく、パートナーの皆さまにもご協力・手作業をしてもらい、周年行事にふさわしい、これまでお店を支えてくれた皆を巻き込んだ企画を実施した。また、善了寺さまのご支援・ご協力により、能登支援の寄付付きメニューの開発、恩送りカードの運用が実施された。保育園等近隣施設との連携については、お惣菜のお届け先の保育園が5園となり、長期休みには近隣の学童施設へのお弁当配達も行った他、定期的に降園時およびイベントでの出張販売にも出向き、さらなるニーズに対応できるように努めた。また、商店会主催にてこよりどうカフェが企画担当をしたイベント「キャンドルナイト」にも昨年度より3園多い5つの保育園が参加した他、近隣の就労移行支援事業所の連携先も1施設増え、新しい関わりがうまれた。

・日時:通年

・場所:神奈川県横浜市戸塚区矢部町

・従事者人員:20名

・受益対象者:区内外の母子中心に、のべ10,000名程度

・支出額:19,013,658円

↓ 公式LINE



↓ オリジナルメニュー開発と能登支援



↓ 味噌玉、学童へのお届け弁当、出張販売



3. お菓子部門

・内容:【概要】「こまちカフェ」内のお菓子工房において、主にクッキーやケーキなどの焼き菓子を製造し、「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」両店舗の店頭のほか、オンラインショップや外部イベント等にて販売。小麦・乳・卵を使わず、アレルギーのある方もない方も一緒に食べることのできる「心とからだにやさしいお菓子」が「気持ちを伝える」手段のひとつとなるよう、お客様にお届けする。カフェへの来店動機を作るとともに、配送を通じてカフェに足を運べない方にも場とつながる機会を創出する。製造工程や作業を分担するほか、イベント販売に参加するなど、ボランティアやインターンの方、地域の方など多くの方が様々な形で関わることのできる事業として取り組む。

【今年度の成果】原材料や資材の価格高騰を受け、2024年度の総会で出た意見をもとに価格の改定を行い、パッケージやシールのデザインを一新した。製造工程やレシピなどの情報共有に努め、スタッフ・こまちパートナーとの連携を図ることで、より円滑な菓子製造が可能となった。毎月のクッキー缶「Tamatebako」をはじめ、バレンタイン、母の日、父の日、ねこの日のミニ缶など、季節や行事に合わせた様々な焼き菓子をオンラインショップで販売、カフェに足を運べない遠方の方にもお届けすることができた。また、9月には横浜高島屋で開催された「LOVE YOKOHAMA」に初めて出店し、多くの方にこまちカフェを知っていただく機会を作ることができた。お誕生日ケーキや季節感の感じられるデザートプレートを開発・提供するほか、「大切な人への贈り物展」や「戸塚夏まつり」などこまちカフェでのイベント参加、さらに「とつかストリートライブ」「戸塚ふれあい区民祭り」「戸塚ものづくり自慢展」など地域イベントでの出店販売を行い、こまちぶらすの他部門や商店会、他団体との連携を深めた。さらに区内の小学校で米粉の魅力を学ぶ5年生のクラスと交流して米粉蒸しパンを開発、児童がパッケージデザインや地域での発信に取り組み、こまちカフェならびに小学校内で共に販売をする活動に発展した。お菓子づくりを接点に地域の活動につながる新しい価値を創出することができた。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 10名
- ・受益対象者: 区内外の一般市民のべ2,800名程度
- ・支出額: 4,011,177円



↑ 高島屋Tamatebakoとミニ缶】



↑「ありがとう」「おめでとう」の小さなクッキー缶



↑ 10周年アニバーサリープレート



↑ 倉田小の生徒さんと開発した米粉の蒸しパン

4. 参加のデザイン

・内容:【概要】飲食やイベントなどをきっかけに訪れた方々が、「互いに関心を持つ」や「自分の思いを語り合う」といったゆるやかな入口からスタートし、自身の「やってみたい」を見つけ、やがて「地域課題や他者のニーズと掛け合わせること」で自分らしい参加と活躍のできる機会をつくり出す取り組みをしている。

【今年度の成果】今年度は、ボランティア登録会の担当スタッフを増やし、体制を強化した。その結果、55名が新たに登録し、累計登録数は371名となった。登録してくださった方々の「好きなこと」や「得意なこと」を活かしながら関りを深めた。具体的な活動としては、カフェでのコーヒー提供やケーキの仕込み、味噌玉作りなどを通じて日々のカフェの営業を支えていただいた。また、イベントでの外部出店では接客や各イベントごとにパートナーさんの力を借りながら関わりを作り、さらに、カフェのメニュー開発会議にも参加していただき、新メニューの開発にも携わってもらった。周年イベントではコースター作りが行われ、各事業に関わるスタッフが積極的にパートナー参加の機会をつくった。

また、同一メンバーで半年間交流する「パートナーぶらす交流会」には8名が参加し、スタッフと共に学びや交流を深め、関係性を育んだ。その結果、多くのパートナーの方が継続的な関わりを持つことができ、また、チラシ折りや在宅での地域子育てカレンダーの情報入力などの軽作業においても、延べ50名のパートナーの皆さまの協力を得ることができた。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ 100名程度
- ・支出額: 149,102円

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」(発達障がいをもつ子どもの親を対象に情報発信・イベント実施)

- ・内容: 【概要】毎月1回お子さんの発達に不安を持つ親・支援者・当事者の方が集まり、お話会と、依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】2024年度もお話会と勉強会を交互に開催。毎年恒例の公認心理師による勉強会や、でこぼこのお子さんのための保護者向け算数教室、先輩ママのお話を聞く会の他、こまちカフェとこよりどうカフェでランチ交流会を開催した。昨年同様に父親も参加できるよう、日曜日にONE FOR ALL横浜で「発達障害のある子の多様な働き方とお金の話」のタイトルでリタリコライフの講師をお招きして勉強会を開催した。通年で戸塚区内で親子支援をしているボランティア団体の集まり「ポンテ」のミーティングにも参加し、各団体の活動報告のほか、地域の情報など共有した。

- ・日時: 4月12日、5月8日、6月7日、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、11月24日、12月6日、1月10日、2月7日、3月7日
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ97名
- ・支出額: 144,088円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容: 【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会となる場を開催。

【今年度の成果】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指し活動した。2024年度は、これまでの参加者よりリクエストがあった「自宅での介助についてのワンポイントアドバイス」「福祉用具について」等の新たな企画も実施した他、若年性認知症ご本人をゲストに講演会も実施した。

- ・日時: 4月22日、5月29日、6月24日、7月23日、8月26日、9月30日、10月28日、11月25日、12月23日、1月27日、2月3日、3月26日 計12回実施
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ 57名
- ・支出額: 86,568円



3.「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」(不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業)

・内容:【概要】月1回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒(学齢期)の家族の方がお話をする場を開催。

【今年度の成果】事業の立ち上げ7年目となった2024年度も、引き続き当事者同士がそれぞれの状況や思いを話すことで「自分だけではない」ということを感じたり、情報を得たりすることで、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。勉強会では、不登校経験をした高校生の話を聞いていただき、将来の不安を和らげていただくことができた。また、講演会では「子ども家庭支援センターにじ」の社会福祉士の方をお招きし、進路選択について詳しくお話いただいた。また、全日制以外の高校に進学され方へのアンケートを実施、結果を共有する会を設けたところ、説明会だけではわからないリアルな声が好評だった。2020年に開設した、会の参加者だけが参加できるオープンチャットは、月1回の会では補えない情報提供や、気持ちを吐露し共感し支えあえる場となっている。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支えてくださった。「はまおやネット」という横浜市内で親の会を主催する支援団体のネットワークの場や、ポンテという区内のネットワークの会にも参加し情報交換を続けている。ご寄付をいただいた本の貸し出しを目的としてスタートした「水曜日の本だな」を毎週水曜日に開催。誰かに気持ちを話したくなった時に、ふらっとカフェに立ち寄っていただく機会となっている。

・日時:4月26日、5月24日、6月29日、7月26日、8月23日、9月28日、10月25日、11月22日、12月21日、1月24日、2月 28日、3月29日

・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

・従事者人員:2名

・受益対象者:不登校児童の親、支援者など、のべ110名

・支出額:183,845円

4.「ただい間のおうち」(不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている学齢期児童・生徒の家族向け事業)

・内容:【概要】月1回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て家族以外の第三者と交流できる場を提供。

【今年度の成果】不登校・生きづらさを抱える子どもたちが、何をしても何もしなくても良い、自分らしくいられる場所の提供を目指し活動している。今年度はご寄付により、おにぎりや味噌玉を提供。食を囲んで、心地の良く話が弾む場となっている。クリスマスクッキングなどの「作って食べる」イベントやミニお祭り等も開催。参加を強制することはないが、何かを一緒にするというを通して会話が生まれていた。またイベントの一環とで、主催者と共に音楽を楽しむ「つむぎ」イベントを共催した。夏休み明けには「学校ムリでもここあるよ」キャンペーンに参加。たくさんのご支援・ご寄付をいただき、パートナー・スタッフの皆様が関わってくださることで、場の提供ができた。参加しているお子さん同士のつながりも生まれてきた。「高校生・大学生ボランティア、こまちパートナー、有志の方、スタッフなど多くの方が活動に関わってくださった。

・日時:4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月9日、8月24日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月21日

・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

・従事者人員:3名

・受益対象者:不登校児童の親、支援者など、のべ102名

・支出額:120,317円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

・内容:【概要】こまちカフェ・こよりどうカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や 情報発信支援を実施。

【今年度の成果】こまちカフェ・こよりどうカフェで、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、イベントを開催、また特技や資格を活かしてチャレンジする機会としてレンタルスペースの貸出も行った。

・こまちカフェ:定期契約16名を含め、のべ24名の方にご契約いただき、子育て講座やおしゃべり会、ヨガなど体を動かす講座、手形アートや編み物などの手作りワークショップ、整体施術やする講座、親子遊びや撮影会、在宅起業の勉強会など、年間約400件の多種多様なイベントが開催された。

・こよりどうカフェ:定期契約3名を含め、のべ19名の方にご契約いただき、ベビーヨガや子育てに関する講座やおしゃべり会、手作りワークショップ、整体施術やする講座、親子遊び、展示会など、年間約100件の多種多様なイベントが開催された。

・全体:両カフェのチラシは、約1200部をこまちパートナーの協力も得て、戸塚区内を中心に約50か所の施設、店舗に配架を行った。両カフェともにSNSを活用して、様々な媒体からより多くの方への情報発信・告知を行った。2月にイベント主催者が集まる契約者交流会を開催し、それぞれの活動や思いを共有して情報や意見を交換する機会となり、横のつながりを作ることができた。定期契約者のレンタルスペース料金支払いでは、オンライン自動支払いを整備したことで、レジ混雑時の待ち時間の軽減、銀行の振込手数料負担や支払いのための来店の手間を省くことができた。イベント内容を事前に提出する際に、エクセルファイルを使用して提出してもらっていたが、契約者のPC環境が異なることもあるため、エクセルファイルでの提出が困難な場合もあった。そのため、マルチデバイスに対応しているGoogleフォームでの提出にすることで、スマホからでも提出が可能となり、契約者が利用しやすいシステム作りをすることができた。

・日時:通年

・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

・従事者人員:5名

・受益対象者:起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,200名程度(オンライン参加者を除く)

・支出額: 1,361,935円



↑こまちカフェ 親子イベント



↑契約者交流会

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

・内容:【概要】こまちカフェ、こよりどうカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方(自宅にいながら働ける一つのスタイル)の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】年4回の定期開催となっているハンドメイド即売会の内容を見直し、契約者の意見を聞きそれを反映しながら、開催時間の変更や初のこよりどうカフェでの開催も行った。スタッフではなく、契約者がイベントを作っている感覚を感じてもらい、そこからより主体的に関わる機会としての役割も担う場所となっている。また昨年度に引き続き「キッズ作家さん販売」も実施。ハンドメイド作家として小学生のお子さんが社会体験できる場を設けて、契約者やこまちぷらすに関わるボランティアの方のお子さんなど毎回1~2名が参加した。3月開催ではハンドメイド部門にとどまらず、カフェやお菓子など他部門と連携して、こまちぷらす全体で盛り上げる企画となった。契約者同士の交流の機会として定期的に交流会を実施しているが、もっと気軽に交流をもてる機会として、毎月第4木曜日に「作家さんの日」を設定。納品や支払いにこまちカフェに寄ったついでに他の契約者とも顔を合わせられる場として、毎月3~4名の方が集まっている。また、これまで2月にこよりどうカフェで行ってきた「猫の日おしゃべり会」は、今年度はこまちカフェにて開催。初めてのご来店の方や1歳児を連れてご家族で参加される方などが、初対面の状況でも「好きなもの」で繋がり話が弾む時間を過ごし、会の終了後も連絡先を交換する等の交流を続ける様子がみられた。6月から開始したこよりどうカフェでの常設展示販売では、スカウト制で契約者を募り、これまで関わりのなかった方にこまちぷらすの活動やカフェの存在を知ってもらう機会として試験的に運用している。

・日時: 通年

・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町、矢部町

・従事者人員: 2名

・受益対象者: 手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ1,000名程度

・支出額: 983,163円



↑こよりどうカフェでのハンドメイド販売会

↑小学生の販売体験

↑1月の契約者交流会では多くの参加があった

V. 多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

・内容:【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018年から横浜

市鶴見区、2020年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022年には茅ヶ崎市でも支部が立ち上げられた。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いの内容は選考会にて4人の選考委員により認定されたものが入っており、申し込みがある世帯へ無料で配布している。(選考会開催は横浜市戸塚区・鶴見区)このプロジェクトの資金は民間財源(協賛金や寄付、自主事業収入)を主としてまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ(子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度)を生み出していくことも目指している。

【今年度の成果】年間通して4つの支部で贈った出産祝いは戸塚702人、鶴見346人、松戸296家庭、茅ヶ崎117家庭と、合計1461家庭の赤ちゃんに贈ることができた。

【戸塚支部】

○出産祝い部門

2024年度出産祝いの発送数は702個となり、参加企業団体数16社であった。参加企業団体の中に本プロジェクトの出産祝いを過去に受け取った方がいらっしやり、時を経て、贈る側としてプロジェクトに参加される方がいた。まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」を地域子育て支援拠点にて年12回実施し、のべ112人が参加。地域の高齢者、子育て中の方、企業の方等様々な方が参加してくださった。その他、商業施設のイベント、高齢者施設等でも利用者のレクリエーションの一環として、作成いただいた。2024年7月～8月にかけては、戸塚にある学童クラブの小学生が背守りのメッセージ書きに参加し、多世代が関わる機会となっている。

○産前部門

戸塚区在住の妊娠中から0歳児の方(主に生後4カ月頃までの方)を対象とした「とつかウェルカムベビーLINE」にて毎月情報を届けた。2024年度は出産祝いやイベントの案内を中心に、行政サービスやサポート情報、防災関係の情報を届けた。現在、356人の登録者へ配信を行っている。(2025年4月13日現在)また、戸塚区社協ふれあい助成金の助成を受け、2024年10月及び、2025年3月に、「沐浴体験と産前産後のお話会」を開催した。開催に際しては、戸塚区子育て支援拠点とつと芽に協力いただき、助産師とともに実施。年間4組の参加者があり、沐浴体験や産前産後の生活、パートナーシップについて話し、地域の子育て情報や子育て家庭へのサポート情報を伝えた。

○産後部門

産前産後の母親の交流の場として、月1回程度こまちカフェにて「ゆるっとママカフェ」を実施。2024年度は、合計14回のべ72名の参加があった。参加をきっかけに母親どうしがつながり、定期的にプロジェクトやこまちぶらすのイベントへ参加される様子も見られた。一定数のリピーター参加もありながら、新規の参加者やマタニティの参加者もあった。

○タウンサポーター/ナッピーデー

子連れでの外出を後押しし、まちの様々な場が「ウェルカムベビー」となることを目指し、子育てを応援、子連れでの来店を歓迎する商店等に「タウンサポーター」として登録していただいている。登録店舗にて、プロジェクトを支援する寄付ボックスを置いていただき、店舗と共に毎月7日を「ナッピーデー」として、子連れでの来店客への各種サービスをするイベントも実施。タウンサポーターは2025年3月現在16店舗、うち8店舗がナッピーデーに参加。ナッピーデーは2024年4月～2025年3月で12回開催した。

○パートナー企業との連携

ウェルカムベビープロジェクトへ参加する企業とコラボレーションしてのイベント実施や活動を行った。

- ・お散歩イベント: 地域商店、生活用品企画製造販売企業(離乳食スプーン等)と開催。
- ・DIYイベント: アパレル・雑貨企画生産販売企業と開催。
- ・家事育児イベント: 粉・液体ミルク製造販売企業、家事代行サービス等実施企業と開催。

【本部】

○支部連携・展開

鶴見支部(事務局:NPO法人つるみままっぷ)、松戸支部(事務局:NPO法人MamaCan)、茅ヶ崎支部(事務局:地域のお茶の間研究所さろんどて)への個別の振り返り及び、全支部での交流会を実施することで、プロジェクト実施における課題を見つけ、相談し合う時間を設けた。また、2025年4月から新たに川崎区支部(事務局:一般社団法人大師ONE博)が立ち上がることとなり、発足のための伴走支援を行った。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員: 5名
- ・受益対象者: 戸塚区・鶴見区・松戸市・茅ヶ崎市で生まれた赤ちゃんのご家庭の方、のべ1460人程度、一般市民等のべ580名程度、計のべ2040名程度
- ・支出額: 4,235,485円



↑出産祝い選考結果発表会(戸塚)



↑出産祝い(戸塚)



←ゆるっとママカフェ(戸塚)

2. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容:【概要】105名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。
「子どもも高齢者も障がいのある人も、誇りと居場所と出番を感じられる地域」を目指し、商店会としてできることを模索しながら活動している。

【今年度の成果】2024年度は、毎月の定例会(年11回開催)に加え、理事会を2回開催した。情報発信としては会員向けにほのぼの便りを毎月1通作成、定例会の議事録の共有、対外的にはInstagramと公式LINEでの発信に力をいれた。商店会主催イベントとして、8月～1月にプレミアム電子商品券事業、7月に戸塚夏まつり内「ほのぼの祭り」、11月に「ほのぼのフェスタ」を開催。イベントを通じて商店会の魅力に触れる機会をもつことができた。特にほのぼのフェスタでは他商店会と同時開催し、戸塚のまちを周遊するスタンプラリーや、特別支援学校の生徒の皆さんがおまつりのアイテムを作るなど、連携や参加の機会をつくることができた。その他、戸塚駅周辺の店舗と行ったはしご酒ライブ、おもちつき大会を開催し合計約1800名の地域住民が参加した。また、SNSの媒体に触れる機会の少ない方向けに紙媒体の商店会マップを4000部再版した。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員:3名
- ・受益対象者:105名
- ・支出額:1,608,322円



→とつかはしご酒ライブ



1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容:【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。
【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぶらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。「カフェ型居場所の展開」として、他地域や他団体に向けたこまちカフェの運営についての実務講座を実施した。さらに、2024年度は長野県千曲市、北海道札幌市を拠点に地域の団体と共催にて、居場所作りの連続講座と地域の応援のネットワークづくりに取り組んだ。

- ・日時:通年
- ・実績(抜粋)
- [主催講座]
 - ・カフェ型居場所のはじめ方講座～飲食編～
 - ・カフェ型居場所のはじめ方講座～手作り小物販売～
 - ・カフェ型居場所のはじめ方講座～イベントスペース貸し出し～
 - ・居場所づくり学びあい講座～心地よい関わりが生まれるカフェのつくりかた～オンライン通常版
 - ・オンラインフォーラム～関わりが生まれる居場所づくりとまちづくり
- [共催講座]

- ・心地よい関わりが生まれるカフェ型居場所の作り方講座 長野・北海道

[視察/研修]

- ・東京都立大学学生ヒアリング
- ・NPO法人MamaCanマネージャー向け研修
- ・金沢区地域ケアプラザコーディネーター研修/視察

[講師派遣/講演会等]

- ・こども環境学会
- ・厚生労働省重層的支援体制整備事業ワーキンググループ
- ・ザルツブルググローバルセミナー
- ・フェリス女学院講義
- ・学芸大学付属国際中等教育学校講義
- ・戸塚高校定時制地域探求授業
- ・神田外語大学講義

[その他 取材対応/調査協力/アドバイザー/おしゃべり会ファシリテーター等]

- ・ヨコハマ市民まち普請事業活動懇談会
- ・横浜ゆめファンド ファシリテーター
- ・緑園都市小学館アカデミーより依頼
- ・横浜市立大学との共同調査、研究
- ・神戸大学との共同研究

・場所:神奈川県、東京都、長野県、北海道、オンライン対応等

・従事者人員:3名

・受益対象者:行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 500名程度

・支出額:4,318,939円